

# 静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び評価結果(年度評価)

令和3年8月

静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課

## 1 施設名及び指定管理者名

静岡県舞台芸術公園 公益財団法人静岡県舞台芸術センター

## 2 指定期間

平成29年4月1日～令和4年3月31日(5年間)

## 3 指定管理業務評価の流れ

- (1) 令和2年度の指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。
- (2) 県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。
- (3) 自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。(開催日 令和3年8月23日)

### 【外部委員】

氏名	職名
岩崎 邦彦	静岡県立大学 経営情報学部 教授
江成 博行	静岡フィルハーモニー管弦楽団 理事長
木ノ下 智恵子	大阪大学 共創機構 産学官連携オフィス 准教授
木村 玲美	浜松総務部有限公司 代表取締役
坪池 栄子	株式会社文化科学研究所 研究プロデューサー

## 4 評価結果

### (1) 外部委員による評価

#### ア 総合評価(5段階評価)

令和2年度実績は、評価点「4.4」、「よく実施した」と判断した。

### 【評価点】

1. 0～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～5.0
実施しなかった	不十分な実施だった	概ね実施した	よく実施した	大変よく実施した

## イ 評価に関する意見

- ウィズコロナは転換期となる。ウィズコロナ時代において、野外劇場という特性や、当公園のオープンエアの広さは、強みになり得る。「コウエン（公園・公演）」を核とした「掛け算」の発想や、スタッフのみなさんの創意工夫で、新たな価値を地域に提供してほしい。地元の学校や、一般劇団とのイベントや交流などさらに進化できると良いと思う。
- 公園内を里山として、人が安全に散策したり、絵画になる環境、人が目的を持ってくつろげる環境となることを期待する。
- オープンデイの開催や送迎バスの運行、お茶畑の地元農家への委託運営など、自前で難しい管理業務をシェアする取組などを通じて、人々に開かれた「公園」の運営に寄与する試み、地域連携の取り組みが評価できる。
- SNSを有効活用しようという努力されていることが伺えるが、“いいね”やリツイートが少なくSNSの機能を十分に発揮できない。公演のPRだけでなく、演劇の楽しみ方、創作の場である公園の魅力も伝えられると面白くなるのではないか。演劇のプロとして、画像発信にも更なる芸術性とバランス力のある映像を作って欲しい。
- コロナ禍で不安を心に抱える今こそ文化芸術の役割は大きい。これまで以上に経済的に厳しい状況になることが予測される中、公園に対し県民から厳しい目が向けられることがないよう、創造する場の意義や魅力を伝え続けることが必要。

## (2) 県評価の概要

### ア 総評

(公財) 静岡県舞台芸術センターは、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

### イ 概要（提案項目別評価）

#### (ア) 効果的・効率的な管理

##### a 再委託業務経費の軽減化

- ・入札による競争性の確保、及び複数年契約の導入における経費節減に努めている。

##### b 公園のPR

- ・「すばっくおーぷんでい」では、SPACの親子向けプログラムである「おはなし劇場」との同時開催により、家族連れへのPR拡大につなげている。

#### (イ) 公園の特性や課題の認識及び県との協調連携

##### a 交通の利便性の確保

- ・利用者が増加する公演時に、関係者と連携して送迎バスの手配や駐車場の確保を行うことにより、利用者の利便性の向上に努めた。

##### b 行政と事業者の立場

- ・公園利活用検討会議の場で相互の意見交換を行ったとともに、日常的に連絡を取り合い適切な施設管理を行っている。

## (ウ)維持管理

### a 維持管理計画

- ・委託業者等との連携により、年間計画に基づいた維持管理を着実に行った。

### b 警備・美化清掃

- ・常駐の委託業者やスタッフと定期的な打合せの場を設けて連携体制を整え、適切な維持管理につなげた。

### c 設備の維持管理

- ・常駐の委託業者やスタッフとの密な連携構築と、担当者の細やかな管理により、適切な維持管理に努めた。

## (エ)施設の破損等に対する対応策等

### a 施設修繕への対応

- ・関係者間で施設の維持管理についての重要性を共有し、計画的な対応に努めた。

### b 損害保険への加入

- ・計画に基づき適正に対応した。

## (オ)災害等への対応

### a 災害、緊急時等の対応

- ・公演中の発災を想定した訓練を継続し、実践演習を取り入れることで従事するスタッフの防災意識を高めながら、災害発生に備えた。

## (カ)職員・常駐業者の能力育成

### a 施設の技術的な維持管理

- ・年間を通じて事故は発生せず、技術スタッフにより舞台設備等の適切な維持管理が行われていると認められる。

### b 園地管理的な維持・管理業務

- ・計画的に園地管理を実施し、良好で安全な環境維持に努め、利用者からも高い評価を得た。

## (キ)施設等の使用団体との調整

### a 施設等の使用団体との調整

- ・緊急事態宣言後の劇場再開から初の公演として、例年どおり8月に県民月間を開催し、適切な感染症対策の上で公演を成功させた。また、2月にはオンライン配信をサポートするなど、コロナ禍における県内演劇団体の活動に貢献した

## (ク)地域との連携

### a 地域との連携

- ・地域の学生との新たな交流の機会を持ち、公園の持つ資源の掘り起こしや新たな活用につなげた。

b 関係機関との連携

- ・緊急時に備えた警察・消防との連絡体制を確実に整備し、施設の安全な管理運営に務めた。